

「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会
(第1回議事要旨)

日 時：平成24年3月29日（木）10：30～12：30

場 所：文部科学省東館3階第2特別会議室

出席者：委 員：加藤委員、小林委員、佐藤委員、佐々木（史）委員、
佐々木（利）委員、戸田委員、中村委員、永井委員、野本委員、
平川委員、村木委員、森田委員、山下委員、山谷委員(代理)
事務局等：文部科学大臣、文化庁長官、文化庁次長、文化財部長、
文化財鑑査官、伝統文化課長、内閣官房アイヌ総合政策室参事官

1. 調査検討委員会の会議の公開について
会議は原則として非公開とすることとされた。
2. 座長、座長代理の選出
座長に佐々木利和委員が互選され、座長代理に佐々木史郎委員が指名された。
3. アイヌ政策推進会議「民族共生の象徴となる空間」作業部会報告の説明
事務局から、アイヌ政策推進会議「民族共生の象徴となる空間」作業部会報告について説明が行われた。
4. 「民族共生の象徴となる空間」のゾーニングイメージの説明
内閣官房アイヌ総合政策室から、「民族共生の象徴となる空間」のゾーニングイメージについての説明が行われた。
5. 意見交換
「民族共生の象徴となる空間」に整備される博物館のあり方、イメージ等について意見交換が行われた。

— 了 —

「民族共生の象徴となる空間」における博物館
の整備・運営に関する調査検討委員会委員名簿

平成24年4月1日現在

役 職	氏 名	所 属
座 長	佐々木 利 和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
副 座 長	佐々木 史 郎	国立民族学博物館教授
委 員	伊 藤 邦 宏	北海道環境生活部長
委 員	加 藤 忠	(社)北海道アイヌ協会理事長
委 員	小 林 孝 二	北海道開拓記念館学芸副館長
委 員	佐 藤 幸 雄	(社)北海道アイヌ協会常務理事・事務局長
委 員	戸 田 安 彦	白老町長
委 員	中 村 睦 男	(財)アイヌ文化振興・研究推進機構理事長
委 員	永 井 順 國	政策研究大学院大学客員教授
委 員	野 本 正 博	(財)アイヌ民族博物館学芸課長
委 員	平 川 南	国立歴史民俗博物館長、山梨県立博物館長
委 員	村 木 美 幸	(財)アイヌ民族博物館長
委 員	森 田 稔	九州国立博物館副館長
委 員	山 下 治 子	ミュージアム情報誌「月刊ミュゼ」編集長

《計 14名》

博物館の目的・性格・テーマ等について

(「民族共生の象徴となる空間」作業部会報告書記載事項)

【博物館の目的】

- ・アイヌの歴史、文化等に初めて触れる人々を含め、国内外の多様な人々に、先住民族としてのアイヌ民族の歴史や文化を学び、正しく理解する機会を提供する。

【博物館の性格（機能）】

- ・アイヌの歴史、文化等を総合的・一体的に紹介し、理解の増進を図る。
- ・そのため、展示内容はあまり伝えられていないアイヌの歴史、文化等の多様性や、周辺の民族との関係性をベースに、山、海、川等におけるアイヌの自然観と精神文化を総合的・一体的に理解できるものとする。
- ・アイヌの文化、伝統等に係る文化財等について、各地域の博物館等のネットワークを形成し、その拠点として各博物館等に保管されているアイヌ文化資料等を活用した総合的・一体的な展示を行う。
- ・考古学や自然人類学の視点も取り入れた展示内容とする。
- ・展示機能を核として、調査研究機能やアイヌ文化に関する十分な知見を有するキュレーター、文化伝承者等の人材育成機能を持つ。
- ・文化施設や自然空間を研究フィールドとした実践的な調査研究を行う。
- ・各研究機関におけるアイヌ関連の研究成果発表等の機会を積極的に提供する等により、研究者間の交流を促進するとともに、文化施設における展示等を通じて、研究成果をアイヌの人々を含めた国民に広く還元する。

博物館の運営のあり方について

(「民族共生の象徴となる空間」作業部会報告書記載事項)

【博物館の運営のあり方】

- ・ 国立を含め、国が主体的に整備することを基本とする。
- ・ 地方公共団体、民間団体等がそれぞれの役割に応じて積極的に連携・協力する。
- ・ アイヌの人々の主体的参画の在り方、民間活力の導入方策等を検討。
- ・ 各機能の整合性を担保するような運営手法や施設管理の在り方を検討。
- ・ 地元にある既存の博物館等の活用の在り方を精査する。
- ・ 新規整備する施設等については、適切な規模、内容とすることに十分留意する。
- ・ 自己収入の確保に努める。